



さっぽろ

1995.9.1. 発行

郵便振替02710-3-570 あごられ幌

NO 195

あごられ幌連絡先	今月通信担当
細田(011-644-2929)	柏原

今月の内容

分類されないミニズムをダイエットとエステが やりましょう	流行る理由
... 1, 2, 3	... 6, 7

Nからの手紙

情報

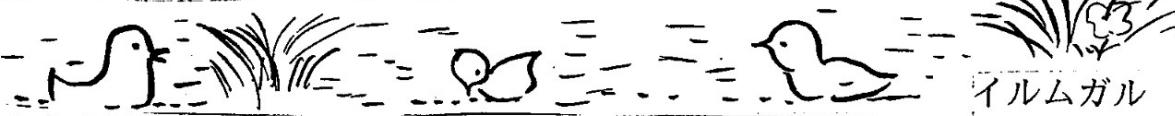
... 3, 4, 5	... 3, 8
-------------	----------

通信費請求料 1,940円(年間)

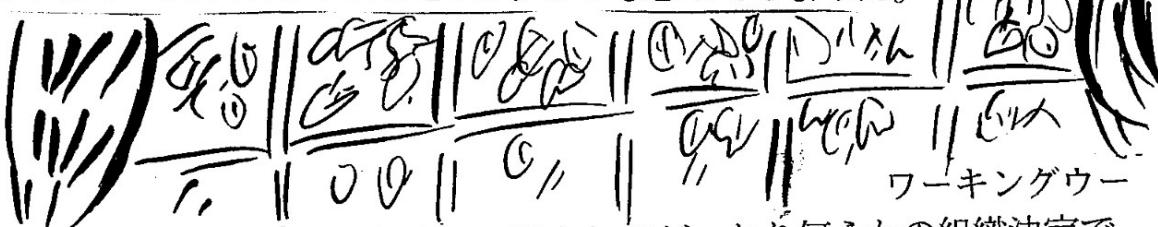
分類されないミニズムを やりましょう!

谷百合子

このところ阪神の災害や泊原発の核のゴミ搬出、核実験などで、いわゆる活動専業主婦と称されている女たちと行動と共にすることが多い。先月も、再処理工場を市民の力でstopしたドイツの記録映画『第八の戒律』をした時も生活クラブを中心とした女たちの協力が大きかった。その時は彼女たちが呼んでくれた小さなグループの集まりに出向き、同じくドイツ映画のビデオ『イルムガルト・ギートル』を持参し、原発について、どうしたら核燃サイクルを止められるかについてかなり深い話しができた。

 イルムガルトさんはドイツの、どちらかと言えば保守的な専業主婦であったが、目の前に再処理工場が立つことになり、反対運動を通して、人生がどんどん開けていった人である。今まででは考えられなかった若者たちとのデモ行動、食べものに关心を持ちはじめ、政府にたてつくことをやる自分に驚きながらも、運動で得たことの大きさに感謝していた。何よりも、子や孫に、放射能まみれの地球を残したくない、そして「ふるさと」を守りたい——の一心であった。そのビデオを沢山の女たちと観、そして語れたことは、私にも大きな収穫であった。彼女たちは、環境問題にもしっかり取り組み勉強もしている。高学歴高収入(但し夫の)、家もちょっとした豪邸である。

フルタイムで働き、家に帰って夫の改造(?)もしながら家事をやり子育てをし、体力があればアフターファイブで市民運動をやっている、私の仲間のフェミニストたちのことを、どうしても思ってしまった。



マンの女たちの反原発は、組合の一環としてだったり何らかの組織決定で動くことが多く、一人一人の新鮮な動きというのは北海道ではまだ充分に育っているとは思えない。大阪の女たちは、いろんな立場の女たちが、ごちゃまぜで面白おかしく、やさしく激しく歌あり踊りありロビー活動ありで長く続いている歴史がある。東京も大阪よりはちょっと堅いけれど、混合スタイルである。



北海道は生活クラブ主体と、女のスペース「オン」を中心とするフェミニストたちが、日常的に反原発の行動をするという動きは、まだ見えないのではないように思う。むしろ、くっきり区別していることで、スッキリした運動が成り立っているようである。今回活動する主婦たちと行動して思ったのであるが、彼女たちは色々なことを学習し、行動し、そして自己の自立のために、次の一步を確実に踏み出している。既に企業や男にからめ取られない仕事へのステップを歩み出している女たちにも沢山会った。



経済的自立のためにフルタイムで働くことは重要な事である。しかし、経済的自立さえ勝ち取れば、それでよしとするフェミニストは、これからは通用しない。原発や核実験阻止の問題でパッと寄り集まれるフットワークの軽さが、女の信条ではないのか。ニュースで見聞きして歯ぎしりしているだけでは、フェミニストとしての名がすたる。本州の女たちのように、混合体で運動することで、お互いの次のステップへの知恵を出し合い、おぎないあえるのではないだろうか——と近頃はつくづくと、ますます、そう思う。フェミニズムも分類されているうちは足場が弱い。企業や男社会にからめ取られず、自然と共生して行くたくましさをつけなければ、男批判をしても、犬の遠吠えに過ぎない。

9/13 日本人にとって 湾岸戦争とは何だったのか

（あらね戦主催）犠牲になった
女性と子どもたち > 女性セミナー
1:00～4:00
伊藤政子さんのイラク現地報告会

湾岸報道のウソは犯罪的である。油まみ
れの鳥、少女の死も仕組まれていた。
真実は何か、イラクに6度、言ふれている伊藤
さんに、多国籍軍の行動が日本人同士と、経済
制裁で子どもたちや、毎日どんどん死んでく
制、く状況を語ってもらう。

伊藤さんは10月に7度目のイラクへ行きます。石鹼・タオル(新品)・鉛筆など日用品・薬を持参します。みんなで持
ちりましょう。

憲法九条を20カ国語で書いたスカーフ・バンダナがあります。300～1600円、ご希望のかたは会場で販売いたします。

伊藤さんの講演日程
9/8 小樽・教育会館 6:30 ¥500-
原発いらない小樽市民の輪
☎0134-54-7704

9/9 《子供たちと話そう湾岸戦争》
10:00 手稻富岡・じょじょ
☎683-0555
1:30 手稻金山・小玉
☎684-0422

9/11 《湾岸戦争の違憲性》
札幌市民会館 第2会議室 ¥500-
6:00インフォーメーション 6:30開始
☎664-0632(谷)

9/13 《湾岸戦争で犠牲になった女性と子供たち》
札幌市女性センター 1:00～4:00 ¥500-
あらね戦主催 ☎664-0632(谷)

湾岸戦争の写真展
9/13～9/20 女性センターにて 無料



Nからの手紙

中山 治光

古くからの友だちNから手紙をもらいました。彼は最近韓国語をはじめたと書いていました。その理由は、(昨年の)六月に同業者の研修旅行で韓国に行ったことだと続けていました。六月といえば、北朝鮮の核の再処理をめぐる核查察の問題で、ある種の危機的状況にあった時期で、釜山とソウルの要所と思われるところには軍隊か戦警隊と思われる青い制服を身につけた若者たちが立っているのが観光バスの窓から見えたし、この時期、日本からの観光客も減ったという話も聞いたそうです。

一日目は、ソウル到着後飛行機で釜山へ。釜山到着は夜の八時半くらい。途中、海鮮料理を食べホテルに着いたのはもう十時すぎだったそうです。ひとつろあびて「下の飲み屋

でちょっとビールでも」ということになり、Nは部屋に入りシャワーをあび集合場所のフロントに向かうエレベーターにのったところ、彼のあとから音もなくホテルのボーイものってきたそうです。

エレベーターがおりはじめたところ下を向いたままボーイが

「女の子いりませんか?」

と日本語で小さな声で話しかけてきたそうです。Nは日本語で話しかけられて『この人は日本人ではないのか』と驚いたそうですが、次の瞬間『ああ、まだ買春する日本人の旅行者もいるんだなあ』と思いなおし、ボーイさんへ、

「いいえ」

と答えたそうです。ボーイはだまって下を

向いたままでした。

Nは、金額はどのくらいなのかを聞こうか聞くまいか迷ったけれど思いきって聞いたそうです。そうすると、ちょっとこっちを見上げて

「三万円」

と言いました。

『へーえ』とNが思っていると、ボーイは「もし必要でしたらX番に電話を下さい」といい終わると、エレベーターがとまり、開いたドアから姿を消していったそうです。

フロントのある階まであと数階あったそうです。

みんなが揃うと日本からの添乗員と韓国人ガイドさんに先導されるかたちで（この時は添乗員もガイドさんもいっしょに飲みにいくのかと思っていたのですが、あとから「先導されたこと」に気がついたそうです）、地下へ通じる階段をおりていきました。日本でいえば居酒屋か小料理屋さんみたいな飲み屋に行くのかと思ってついていくと、ドアのむこうから最大級の音量で音楽が耳に入ってきて、開いたドアから高いところにある大きな舞台の上で生バンドが演奏し、その手前で踊っている女人人がたくさん見えました。

『へーえ、こんなところで飲むのか』

とお互いの話も聞こえないくらいの音量にうんざりして、出されてきたビールを飲んでいると、その席に女人人が何人か来ました。

Nは、今まで韓国語を二度習ったことがあったのですが、発音の段階で二回とも挫折した経験があります。だから、韓国語はちょっとしたあいさつと「オガ表」^{ガガヒョウ}を読めるくらいだと言っていました。だから、彼女たちは話はできないと思っていたし、話をするにしても、耳ばかりでなく気持ちまでも圧倒されそうな音の前にステージを見るでもなしに見ていると、女人たちが踊っているところが円形にせり上がって来たのでびっくりしたと書いてありました。

そのうち、なんか座がざわついてきたので

何ごとかと思っていると、

「よし。おれ四万払う」

という向いの席の男の声が聞こえてきました。ちょうどバンドの休憩の時間だったかも知れないNは書いているのですが、Nはその時、その男の横に座っていた女人のうんざりした顔を目にしたそうです。

「おい、だめだだめだ。ちがう、ちがう」

この場は買売春の場ではないし、そんなことをしたらだめだという気持ちをこめてNは声をかけたそうです。しかし、となりのボックスの男たちが女人たちといっしょに立ち上がって出ていく姿が見えたし、その時になって『ここは、そういう場所だったのか』とはじめて気がついたそうです。

で、Nのとなりに座っていた女人に、

“She doesn't make love with him?”

と聞くと、その女人は、向かいの女人に韓国語で話しかけ、なにかを二人で話していました。「指名」した男が立つと、その女人の人もいっしょに席を立っていったそうです。

その夜、Nの部屋に一人でもどってきた若い連中が集って冷蔵庫の酒を空にし、各自の部屋の酒をとってきては飲んだそうです。

集った連中が話したことは、下のバーのトイレでおしぶりのサービスをしてチップをもらい、たぶんそれで生活しているのではないかと思われる男の人のことや「おれが交渉して5万円が4万円になった」とか「きょうは買わねえ。ちがうとこでやった方がいい」とか「三発四日の旅」とかそんな話だったそうです。N自身ワイ談もするし、そういう話はきらいではないそうです。しかし、この場の話は、旅行中、駅や道や食事中でも手をかえ品をかえ大声で話されニヤつく顔を見てはもううんざりしたと書いていました。

Nはそれまで「品」ということばが存在するのか、と思っていたし、「品」ということばに偽善や虚偽、高慢といった感じをもつて嫌悪感すら抱いていたそうですが、「下

品」とか「品がない」という実体が目の前にあることを実感したと書いています。

Nが部屋のトイレに入っている間に、さっさと行ったバーで向かいの席に座っていた男とつれて行かれた女の人がいっしょに部屋の中に入ってきて、若い連中がギャアギャアさわいでいます。

その男は、自分がまだ男として通用すること、そして自分の妻が絶対してくれることがないサービスをしてもらったことを何度もくりかえし、そのたびに若い連中がはやしたてていました。

そのさわぎの間、女人人は出されたジュースにあまり口もつけず、二度三度電話でだれかと話していたそうです（あとから、よその部屋にいる仲のいい女人人と帰りの時間を決めていたのではないかとわかったそうです）。

男たちは相変わらず酒を飲みさわいでいたそうですが、そのうち彼女はスクッと立ち上がり、Nに向かい韓国語で話しかけてきたそうです。男たちは最初何ごとかという感じでシンとしたそうですが、そのうち彼女が話しているのを無視してまたさわぎ始めたのですが、彼女はまっすぐNに向かい話していたそうです。Nは彼女のことばが何を話しているのかはわからなかったそうです。しかし、彼女のNに伝えたい気持ちを理解することはできた気がしたと書いていました。Nはじっと彼の目を見て話すその人の顔をあまり見ることができなかつたそうです。

彼女が話したことばの中で、何回も使ったことばがNの心に残っているそうです。

「…アニョ」

韓国語講座のテキストをしらべてみると“否定のことば”とわかったそうです。

キーセンパーティーは、この旅行の最後にくみこまれていたそうです。

ソウル市内観光——といっても免税店やにせものブランド商品店めぐりでうんざりだっ

たとNは書いてます——そもそも終わりというところ、日本人添乗員が「女性のガイドさんに説明させるのは…」といって、これから「置き屋」に向かうのですが、そこに着いたらみなさんの座った席のとなりに女人人がつくので、断わる時はハッキリその意志を伝えなければ「O.K.」という意味になります、ということや一晩たしか五万円ということを話したそうです。

ソウルの中心部からはずれて、坂道をこえ細い道で古い家並みをバスは進んでいったそうです。玄関を入り、二階に上がり入った部屋は八畳間を二つあわせたくらいの部屋で、Nは床が病院の廊下みたいに思えたそうです。寒々とした大きな部屋の中の中央でなくて片すみに人数分の料理が準備されていたそうです。

Nは、その部屋の三分の二ほどの床の空間で歌やおどりでも演ずるのかと思ってビールを飲んでいると、絹ずれの音がいくつも聞こえチマチョゴリを着た女人たちが客の倍くらい入ってきたそうです。そして客の向いの壁ぎわにずらーっと並んだそうです。

そこで、客たちに女人を選べというのだとそうです。

Nは、あせって、身を引いたそうです。彼はキーセンパーティーがどんなものか知りたかただけだったと書いています。それで、少しでも自分の気持ちを伝えるために日本語か英語の話せる人をと、だんどりをつけている女人にたずねると「みんな話せます」と答えたそうです。

いかに言いわけをしようと、はじめからその気がないのにこの場に物見遊山ででかけることの意味を知ったとNは書いています。

Nは、彼自身が選んだ女人に
「なぜ私を選んだのか？今夜これから仕事ないよ。私どうする」

と言われたと書いています。

Nがその人から聞いた最後のことばは「運命」だったそうです。

ダイエットとエステが流行る理由

「わたし脱いでもスゴイんです」は、今年の夏の流行語ともなった。これは、この不況下で唯一繁盛しているといわれるエステ業界の中でも大手である東京ビューティセンター（TBC）のCMでイジワルな女性面接官の質問にムッとして答えた若い女性の挑戦的なセリフである。今年に入ってからのTBCのCMを追ってみると、

○'95春編（～3月末）

若い男女のカップル登場。女「ねえ、私のどこが好き？」男「（ふっきらぼうに）カラダ。」それを聞いて女はニッコリする。そして最後は「彼、私のカラダが好きなんだって。」とエステでカラダを磨いてもらいながらうれしそうにつぶやくシーンで終わる。

○'95夏編（3月末～7月末）

ある面接会場。（TBCかしら？）面接官数人は全員女性である。
ある面接官の一人が、「北原さんね。あなた美人ね。顔だけで世の中渡っていけると思ってない？」と若い女性に向かって質問する。彼女は、「はい思っています。」といった次に出た言葉が例の「わたし脱いでもスゴイんです。」最後はおきまりのエステを受けているシーンで終わる。

○'95秋編（7月末～）

ある若い女性、買物帰りなのかたくさんの荷物を抱えてやっとタクシーをつかまえたと思っていたら ボディコン風のやや派手なかっこをした女性登場、チラリと（でもしっかりと）彼女のほうを見て（「わたしのほうが美しいのよ！」とでも言いたそうに）サッサとそのタクシーに乗り込んでしまう。「何よアイツ！ムカツク！」と憤慨した彼女、スカートの裾をたくしあげてタクシーをつかまえようとする。「頭がいいだけじゃあ 全体があるで！」とエステのベッドで叫ぶシーンで終わる。

(注) 3つ目のCMは、8月末より(なぜか)放映されていないようです。

ナオミ・ウルフはその著『美の陰謀』のなかで男たちは、女たちにあらゆる社会進出を許した、しかし、そのかわりに女を美人と不美人とに分断して女たちを美の競争に駆り立てることで女たちの統合を妨げ、真の権力は渡さないという陰謀を企んだのだと言っている。日本でも有能な女性キャスターがその実力よりも脚線美で値踏みされるためにダイエットやエステに励んでいるという事実がこのことを証明している。

「女の敵は女よ」といわんばかりにカラダをめぐる女同士の闘いを過激に描いている夏・秋編はウルフの言ったことを如実に表している。それは水面下でじわじわと女性たちを追い詰めているのかもしれない。春編については、彼に気にいられているカラダをセッセと磨く彼女はあまりに健気で悲しささえ感じる。なぜなら他人の評価に一喜一憂する生き方は摂食障害に悩む女性たちと通じるものがあるからである。

「私はあまりダイエットに興味なかったんだけど、友達がダイエットの話をしているので私もしなくちゃいけないかな、と思っていたら、いつのまにか…。」

「やせさえすれば人に好かれて明るくなつて今まで全然違う人生になるんじゃないかなと思って…。」

マスコミでは、若い女性といえばイケイケギャルで適当に遊んでいるかのように取り上げがちだが、その一方で、摂食障害に悩むこんな健気で生真面目な女性たちが存在しているのも事実だ。男女平等への一步であったはずの均等法が施行された80年代半ば頃から日本では摂食障害が増加した。ダイエットということばが国民の中に定着し、老いも若きも「太る」ということをことさら嫌悪するようになり、テレビからも街からもぼっちょりした女の子が姿を消していったのはこの頃からのことである。そして10年、ますますやせ傾向は強まり、女性が望む理想の体型は、161cm・47kg、凹凸のあまりない少年のような体型だそうだ。女性の証といわれてきた乳房もお尻も脂肪も女性たちにとっては邪魔なものになってきたのだろうか？

90年7月、「女性の社会進出が拒食症をつくる」（就労ばかりが女性の自立ではない、家事・育児に勤しんでもいいのではないか）という精神科医の発言が朝日新聞紙上で議論となつたが、それはあのアグネス論争のように発展せずいつのまにか立ち消えてしまった。現象だけを見ていけばその医師のいうとおりかもしれない。

やせたカラダは、弱さ・はかなさ・繊細さ・無力さを表すという意味においては、「女らしい」が、同時に、ふくらみや丸みから遠ざかるという点では、「女らしくない」。やせたカラダには、この2つの相反する意味合いが込められているというところにその存在意義がある。女性が社会に進出する－「男性の領域」に進入するという意味においては「女らしくない」行為－際、（男性にとって）脅威的でない存在とするために、弱さやはかなさといった「女らしさ」つまりやせたカラダーが必要だったのだ。そろそろ私達は自分たちのカラダを自分のものとして取り戻さなくてはならない。とりあえずは、脱いでもスゴクはなさそうなやせたカラダにはおさらばして、「みんなで太れば怖くない」というキャンペーンでもはろうか？

(N・Y)

INFORMATION

ナキウサギからのメッセージ 助けて。

道内各地でトンネルや道路がつぎつぎに造成されつつあります。そのため、ナキウサギがいまや絶滅寸前になりました。ナキウサギは、ほんのちょっとした環境の変化に敏感で、あまり適応性がなく、とくに排気ガスによわいのです。

ことし7月に発足した「ナキウサギふあんくらぶ」には、北は北海道から南は沖縄まで、ナキウサギを愛する全国各地の女性たち百余名がいます。「ナキウサギが絶滅しないように」と、ただそのおもいだけでくわわりました。「ふあんくらぶ」の入会資格はそれでじゅうぶんです。

かよわくてモノもいえぬこの創造物のメッセンジャーとして応援してくれるひと、生命のたいせつさを理解できる老若男女、ナキウサギに関心のあるひとはもちろん、「ナキウサギって…?」とおもっている方も、ナキウサギを愛する気持ちがあれば入会資格アリです。

あなたもいかがですか?

「ふあんくらぶ」のおもな活動目的はつぎのとおりです。

- ①ナキウサギのことを知らないひとたちに知ってもらう。
- ②ウォッチング・ツアーなどをとおしてナキウサギについて見聞してもらう。
- ③メッセンジャーとしてナキウサギのことをつたえる。

- ④天然記念物としての指定をめざす。
- ⑤「ナキウサギ」を「生きウサギ」にしないよう絶滅の危機からまもる。

■「ふあんくらぶ」への参加方法□郵送またはFAXにて下記連絡先へ入会申込。
⇒送られてきた振込用紙をつかって郵局から入会金を支払う。⇒そののち会員証がとどき、ナキウサギのメッセンジャー(会員)となります。

■入会金□一般2000円/子供500円(中学生成まで)/年会費などはありません。

■問合せ□〒060札幌市中央区北3条西11丁目加森ビル5・6階 粛北海道自然保護協会内「ナキウサギふあんくらぶ」/☎011-251-5465 FAX011-281-3383

■振込口座□02730-1-17060「ナキウサギふあんくらぶ」

9/22 澤地久枝さん講演会 6:00開演 ¥1,000
北星学園戦 後50年を考え平和をつくる
北星学園講堂

9/8~9/14 伊藤政子さんのイラク現地報告(合664-0632)

。湾岸戦争の違憲性。報道のうそ。経済制裁は新たなる戦争である。
。加害者でしかあり得なかった日本人の戦争責任は? 子どもたちは湾岸戦争をどう見、どう感いでいるのか。ピンホント攻撃の対象は軍事施設に限られていたというのはウソで、沢山の一般市民が犠牲になった。7度目の中止で、救援物資を集めています。協力下さい。

いろいろお伝えもらっちゃいました。ありがとうございました。

「大丈夫! 私が“やろう”と思ったことはなんだった
。できました!!」と、根柢もなく強気な言葉を声に出して、行動してました。先日…つまんない用事だったん
。こんな自分がふっと - 8 -
おかしかったのか

